
バカとテストと召喚獣～日常～

リリン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣〜日常〜

【Nコード】

N3369H

【作者名】

リリン

【あらすじ】

突然の瑞希達の誘拐！戸惑う明久達を救う1人の救世主が出現した！その名も「ムツ」。その者がもたらした情報を頼りに明久達は瑞希達を救出を試みる。明久の屋上ダイブ。明久達は無事に瑞希達を救出できるのか！？そして一体その犯人とは！？「あれ？途中にかなり不吉なこと言わなかった！？しかもネタバレだよ……」（by明久）3、5巻以降の長編、短編集を集めた新しいバカテスト、バカテストを収録しキャラの個性、雰囲気壊さないようにしました。

第一問（前書き）

バカテスト「歴史」

【第一問】

問 以下の

年号におこった事柄を答えなさい。

『紀元前31

年』

姫路瑞希の答え

『アクティウムの海戦』

先生のコメント

正解です。難問として出題したつも

りですが流石です。

土屋康太の答え

『世界の滅亡』

先生のコメント

百

歩譲って創世と書いて欲しかったです。

吉井明久の答え

『人類補完計画』

先生のコメント

この回答は色々な意味で問題 があります。以後、気を

つけて下さい。

第一問

学園祭が終わり試召戦争も出来ない今、僕らの通う文月学園は静けさに包まれていた。

僕らも西村先生（通称 鉄人）の授業が終わり屋上で安らかな一時を過ごしていた。

「雄二、暇だね〜」

「奇遇だな、俺も今そう思った所だ」

今、一緒にいるのは僕の悪友、坂本 雄二だ。

昔は神童とも呼ばれた雄二だけど最近はただの性格の悪いバカとしか思えなくなってきた。

「雄二、今後の作戦は？」

「今はよくないか？どうせ試召戦争も出来ないことだ」

「それもそうだね」

前回のAクラス戦の件でFクラスは敗北し3ヶ月間は試召戦争が出来ない。

さらに点数はかなり削られ流石の姫路さんでも相当体力を消耗したらしい。

こんな状況で試召戦争なんてやられたら普段、栄養分が無い僕なんて死に直結するだろう。

まあFクラスに挑むクラスなんていないだろうけど…

（原作四巻での内容はまだ起こっていません）

「「隙だな」」

やっぱり雄二と声が揃うと吐き気がする…

「おぬしらは何をいつておるのじゃ？」

「あつ秀吉」

僕らの会話を聞いていたのか後ろから呆れ顔で話してきたのはFクラスが誇る美少女、木下 秀吉である。

クソっ！この場に雄二が居なければ最高のシチュエーションだったのに！

「なんだ秀吉？演劇の練習か？」

寝転んでいた雄二が体を起こし秀吉に聞いた。

まあ確かに秀吉が屋上に来るなんて演劇以外の意図が見つからないな。

「「うむ…強ち間違いではないのじゃが…島田と姫路を探しておるのじゃ」」

「美波と姫路さん？」

そつえば美波も姫路さんも朝から見てないような…

「なんだ？演劇部の助っ人か？」

「うむ、次の劇は何分女役が必要での、2人に手伝って欲しかったのじゃが…」

ふむ、美波に秀吉に姫路さん…もう劇を見なくても名作のような気がしてくるよ。

「明久、当然ながらワシは男役じゃぞ？」

「ちょっと演劇部の部長の所まで行ってくるよ」

「おぬしは一体、ワシに何を求めているのじゃ！？」

決まってるじゃないか…まずは秀吉メインの話に変えて…いや、姫路さんでも…

「秀吉、それなら俺らよりムツツリーの方が早いぞ」

「じゃがそのムツツリー二も居らんのじゃ」

「やっぱシンデレラ…いやここはいつそ美…」

「おいバカ、いい加減かえってこい」

雄二に頭を叩かれスパーンと良い音が屋上に鳴り響く。

あれ？僕は一体、何を？ああ、そう言えばムツツリーニがどうとか…

「そついえば秀吉はムツツリーニの呼び方を知らないな」

「呼び方とな？」

まあ秀吉はどちらかと言えば被害者側に属するからね。

「ちよつと見てろ」

パンツパンツパンツ 雄二が手を3回叩く音

シュツ… ムツツリーニが現れる音

カシャツ… ムツツリーニが秀吉の写真を撮る音

「ムツツリーニ？参上と同時に瞬時でワシの写真を撮るは止めんか？」

秀吉が少し顔を赤らめながら言う。

「……………大丈夫…売り物では無い」

全然、大丈夫じゃないと思うのは僕だけだろうか？

「駄目じゃないかムツツリーニ、秀吉が嫌がってるだろ（秘蔵コレクションと写真2枚で）」

「……………わかった（……………交渉成立）」

「今、ワシの背中にただならぬ悪寒が走ったのじゃが……………」

流石はムツツリ商会、アングル指定もできるとはやはりただ者じゃないな。

「……………用件を聞こう」

「そうじゃった、島田と姫路の居場所を教えてくださいんかの？」

「……………1分くれ」

そう言うとムツツリーニはヘッドホンと小型マイクを身に付け小さくうずくまった。

盗聴って完全に犯罪だったような……………

（1分後）

ムツツリーニは地図を取り出し1つの小さな物件……………倉庫かな？を指した。

「なんだ？なんで町外れなんかにいるんだ？」

「僕こんな所行ったことないよ」

基本的に町から出たこともあまりないんだけど…

「……………音声状況から察するに霧島 翔子もいる」

「悪い、どうやら俺が協力できるのはここまでだ…」

僕はこの時、心の底から雄二をダメ人間だと思った。

「しかし、不思議じゃの？今日は学校じゃと言うのに？」

よかった、状況が分からないのは僕だけじゃなかった。

「ムツツリーニは分かる？」

「……………（こくこく）」

流石はムツツリーニ、伊達に蘇った忍者と呼ばれている訳だ。

「で、その内容は？」

「……………誘拐」

……………へ？

第一問（後書き）

どうもリリンです（・ ・ ・）今回はお詫びと今後の進み具合をお話したいと思います。読者の方々、当作品をご観覧いただき誠にありがとうございます。未熟ゆえにキャラの個性などが中途半端で面白さを出し切れていないかもしれません。また直していきたいと思います（・ ￥ ・）今後の更新は日があきしだい頑張りたいです。これからも応援、宜しくお願いいたします。

第二問（前書き）

バカテスト「国語」

【第二問】

字の読みを答えなさい。

問 次の漢

「卅」

姫路瑞希の答え

『そう』

先生のコメント

正解です。このような問題は書きではなく読みとしての出題が多いです。

土屋康太の答え

『王を横にしたもの』

先生のコメント

印刷

ミスではありません。

吉井明久の答え

先生のコメント

あなたは一体、テストを何だと思ってるのですか？

第二問

ムツツリーニさん!?

「ねえ！嘘だよね!？」

そんなバカなことがあるはず…

「……………！（ブンブン）」

「でも霧島さんもいるんだよ!！」

そんな簡単に捕まる訳が…

「……………誘導誘拐」

「誘導誘拐?」

「簡単に言えば嘘で相手をおびき寄せることじゃの」「

「あらかじめ島田か姫路を誘拐して電話で2人を人質として翔子を脅したんだろうな」

「そんな…」

「じゃあ、もう姫路さんたちは…」

「いや、あいつらに危害はないと思っぞ」

「へ？どつして？」

それじゃ誘拐した意味がないじゃないか。

「誘拐は朝の時点から始まつてるだろ？それで今、音声確認が取れたという事は奴らの狙いは姫路たちにはないということだ。少なくとも姫路たちには人質であつて欲しいんだらうな」

「なるほど」

流石は雄二。こんな時にでも冷静でいられるのが凄く頼りになる。

「しかし…まあ、こつちの不利には違いないんだが…」

「むう…安心してよいのか微妙なところじゃな」

秀吉もまさかこんな大事になつてるとは思つてなかつたみたいだ。

「でも居場所が分かるなら助けに行けるんじゃないの？」

「バカ言え。下手に動けば姫路たちが危ないんだぞ。」

「そ、そうか」

居場所を知つてる誘拐なんて当然、警察は動いてもくれないだろう

し…

「ムツツリーニ、しばらく音声を繋いでることはできるか？」

「……………問題無い」

ムツツリーニはヘッドホンを抜きみんなに聞こえるようにセッティングしてくれた。

『……………おい……………だ動かない……………か？……………』

やっぱり音声が悪いね。

『……………そうだな……………ろそろ……………いい……………か……………』

『……………明久くんは……………対……………します……………』

あ、姫路さんの声だ。

『……………ん？……………を醒ましたか……………』

「……………雄二たちは……………る……………」

次は霧島さんだ。

「どうやら姫路たちは眠ってたみたいだね」

「そうだな、それにもう大体の状況は分かったな」

「へ？」

僕には何も分からないんだけど…

「姫路たちがお主らの名を言った時点で狙いはお主らと言ったことじやな」

あ、そういうことか……え？

「ち、ちよつと！？なんで僕が狙いなわけ！？」

僕が精々恨まれるなんて鉄人ぐらいなのに…

「外見じゃないか？」

「外見かの？」

「……………外見？」

「みんなキライだ！！」

遠まわしにブサイクって言うてるのが肌で感じられるよ。

「ま、まあみんな、もう一度冷静になろう」

そして僕に謝らない？

「そうだな、たとえ明久の顔が世界一悪くても今のは言い過ぎだと

思っ」

「貴様には一度、死を味わってもらおうか…?」

「明久、お主の顔が徐々に劇画彫になっておるぞ?」

「なんだかこの3人と会話してるだけでもFクラスがバカの集まりってわかるくる。」

「じゃあ行くか」

「あれ?さっきと言ってることが違わない?」

「目的が違ったからな、明久、お前が姫路たちを助けるんだ」

「う、うん」

「そうか…思えば姫路さんたちは僕のせいであつたのか…」

「理由は分からないけど僕が理由ってならやることは1つ。」

「みんな、悪いけど協力してくれる?」

「」「」「おう!!」「」「」

「姫路さんたちをいち早く助けるんだ。」

第二問（後書き）

すみません（T^T）オリジナルが多すぎてキャラが全然自立しません（・・・）微妙な小説となりますが宜しく願います（<人>）

第三問（前書き）

バカテスト「英語」

【第三問】

問 次の英

文を過去形にしてください。

『I live in Tokyo』

姫路瑞希の答え

『I lived in Tokyo』

先生のコメント

正解です。過去形などは英文法の基本なのでしっかり覚えましょう。

土屋康太の答え

『I don't live in Tokyo』

先生のコメント

そういうことを聞いている訳ではありません。

吉井明久の答え

『I live in Edo』

先生のコメント

その知識を日本史に回してほしいです。

第三問

「無理だ！止めよう！」

「待てや、コラ！」

見事に雄二のラリアットが直撃

この作戦はおかしすぎるよ…

（10分前）

「今から作戦を説明する」

雄二は何やらゴロゴロと作戦に使う道具を持ってきた。

「マイクとスタンガン？」

雄二が持ってきた物はイヤホン型のマイクと何処で手に入れたかわからないスタンガンだった。

「これをどうするの？」

「まずこのマイクで秀吉に明久の声を真似してもらおう」

「うむ、わかった」

「……………僕がいるのにな？」

「ムツツリーニは潜入だ」

「……………了解した」

まあ適役かな……

「そして明久は出来るだけ目立つよう屋上から飛び降りてもらおう」

「僕だけかなり非現実的じゃない!？」

「というか死に直結してるよ。」

「仕方ないだろう、これ以外目立つ方法が見つからないんだ」

「助ける前に僕が死ぬよ!？」

「お前には姫路たちが心配じゃないのか？」

「それとこれとは話が違つようだな……」

「それに現実的に考えて屋上から飛び降りるバカがいるとすればそれはいつはこの世にいるはずがない。」

と、まあこんな感じで話が続いていった訳だけど…

「雄二は何もしないの？」

「いや、俺は姫路たちを避難させる役割だ」

「じゃあ僕が飛び降りる理由は？」

「その間の時間稼ぎだ」

「……本音は？」

「明久が捕まれば俺らの負担が少なくて済む」

「死にさらせえええ！！！！」

「ま、待つんじゃ、明久！」

「秀吉！止めてくれるな！」

このバカには一度、体裁を下さねば気が済まない。

「それじゃバカはほつといて作戦を言っぞ」

こいつだけには言われなくなかった…

「……………以上だ」

雄二の分かりにくい作戦を纏めるところだ。

- 1…秀吉が僕の声真似で相手をおびき寄せる。
- 2…ムツツリー二の合図で僕が照明を消す。
- 3…僕が相手の前に出て（飛び降りには中止となった）時間を潰している間に雄二が姫路さんたちを救出する。
- 4…ムツツリー二の合図で全員退却。

とこんな感じだ

「こんなに上手くいくかな？」

「まあ照明を消すまでは上手くいくだろう」

「ワシらは終わればなにをすればよいのじゃ？」

「秀吉は俺、ムツツリー二は明久のサポートを頼む」

「うむ」「……………了解した」

「僕はずっと囹役？」

「そうだな、ああ一応これを持っていけ」

そう言っつて雄二が取り出した物は…

スタンガン500V

「殺せつてこと？」

「お前の判断に任せる」

こいつ、罪を全て僕に擦り付けるきだな。

それに思うんだけどムツツリーニも雄二もどうしてこんな物持つてるんだろ？

「ほんじゃグダグダしても仕方ねえし行くか！」

「「「オー!!!」」」

テンション高すぎだよな…

第三問（後書き）

すいません（ノー・、）バカテストを考えていると約二週間空けて
しまいました（Ｔ・Ｔ）これからは元のペースに戻せる様頑張りま
す（・・・）ゞ

第四問（前書き）

バカテスト「化学」

【第四問】

問 次の「

」に当てはまる語句を記入しなさい。 1つとは限りません。

『塩酸に「1」を入れると「2」が発する』

姫路瑞希

の答え

『1石灰石2二酸化炭素』

先生のコメント

正解です。他にも石灰石の代わりに貝殻や炭酸カルシウムなども代用できます。

霧島翔子の答え

『1鉄2水素』

先生のコメント

同じく正解

です。こちらは亜鉛などが代用出来ませんが貴金属では発生しないので注意が必要です。

土屋康太の答え

『1葉草

2回復薬G』

先生のコメント

痺れ薬を作る気ですか？

吉井明久の答え

『1生き物2呻き声等』

先生のコメント

.....ウプッ.....生な想像をさせないで下さい.....

第四問

《こちら明久、どうぞ…》

《こちら雄二だ、異常なし…》

《……同じく》

《秀吉じゃ、問題はない…》

現在、僕らは相手の本拠地周辺を囲みタイミングを見計らっている。
しかし現場到着からかれこれ20分以上が経過しているのに動きの
一つもない。

《雄二？いつ動くの？》

《そうだな、向こうにも動き1つぐらいある筈だが…》

《………？》

すると雄二の予想通りムツツリーニから合図があった

《…………… 仲間の1人が移動中、行き先は第2倉庫》

《了解だ、ムッツリーニ、尾行を頼む》

《…………… 了解》

まるで初めてとは思えない手際の良さだ。

でも僕らって高校生では有り得ない経験をしてるような…

《でもこんなだと、試召戦争なんてまだ可愛い方だ》

美波や雄二の対応を除いては…

《お前の召喚獣はフィードバックされるから普通の奴より10倍は負担があるんだろ》

10倍…観察処分者って期限ないのかな？

《…………… 第2倉庫に音声確認あり》

ムッツリーニの声が静かに聞こえてきた。

《それって姫路さんたちの声なの？》

《……………》

あれ？ムッツリ…あ、そうか。

《今は頷いても分からないから返事をお願い》

《……………了解》

ムツツリーニって少し面倒くさいタイプだよな。

《よし！じゃあ今からそっちに行く、各自所定の位置につきしだい連絡を入れる》

《《ラジャー！…！》》

《で雄二、結局の所、逃げる気でしょ》

《何を言ってる、逃げるなんて冷酷無比な行動とれるか》

《そつだよな、じゃあしつかり霧島さんたちをお願いするよ》

《……………》

《どうしたの？霧島さんたちをよろしくね》

《……………なあ》

《なに？》

《翔子だけはお前が助けて…》

《拒否すれば雄二の実家に腐ったザリガニとプチプチの梱包材を大量に送るよ?》

《な!?!やっぱりあれはお前の作戦だったのか!》

《さあ、どうする?》

《止めてくれ…そんなことをされたら我が家は崩壊してしまう…》

雄二…実に情けない。

《まあ…みんな、位置についたな?》

《《OK!》》

《じゃあ上手くやれよ、3、2》

いよいよ雄二のスタート合図が始まった。

《1…0!スタート!》

雄二の声を発すると共に遠くから秀吉の声（僕バージョン）が聞こ

えてきた。

《お前たちは完全に包囲されている!!おとなしく出てこい豚野郎
!》

秀吉の演技つて人を選んで言っていない?

ブツンツツ!!

そして急に中の電気が消え、僕も勢いよく中へ突っ込んだ。

「「なっ!?!さっきの声は!?!」」

「姫路さん達を返せ!」

しかし相手の顔を見た時、僕は言葉を失った。

「き、君らは!?!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3369h/>

バカとテストと召喚獣～日常～

2010年10月10日16時16分発行